

# 透析患者のバスキュラーアクセス（VA）に対する意識 -シャント肢洗淨に関する聞き取り調査より-

長崎腎クリニック

○上谷しのぶ 高木志緒理 田中 健 丸山祐子 橋口純一郎 原田孝司  
船越 哲

## 【背景】

VAに関する合併症の中に狭窄や穿刺部感染症等があげられる。

## 【目的】

患者自身VAの清潔保持への意識について調査し、VA感染予防に向けた看護介入のあり方について考察する。

## 【対象・方法】

当院外来維持透析患者58名に、VAの清潔保持に関する聞き取り調査を実施した。

## 【結果】

シャント肢洗淨の必要性を感じている患者は40%、実施率は33%であった。多くは「入浴時シャントは弱く洗う」、「シャワーで流すだけ」など『シャントの保護』を優先した清潔の保持方法であった。透析前にシャント肢洗淨をしない理由として、41%が「局所麻酔剤を貼っているため」と回答した。シャント洗淨の必要性を感じない患者の97%、必要と感じている患者で52%はシャント洗淨の指導を受けていないという認識であった。

## 【考察】

患者にとって、『シャントの保護』は清潔を上回る重要事項であることが示唆された。看護師は患者なりの考えを尊重しながら、清潔保持の教育を継続することが重要と考える。